

## 意欲と主体性を引き出す放送番組の活用

神奈川県川崎市立平間小学校 宮崎 誠

### 小学校3年 理科 ふしぎがいっぱい (3年生)

#### 番組の特徴

出演者「たっくん」が、野原やまち、森などにでかけ、いろいろな「ふしぎ」を見つける番組。10分という短い時間の中で、疑問を見つけ、様々な方法で観察、実験を行っている。番組の最後はオープンエンドになっていて、番組の視聴をきっかけにして学習に入ることもできるつくりになっている。

#### 研究の概要

電気という言葉には日常的に触れている子ども達だが、多くの子が電気の流れるしくみにはじめて触れることになる。番組を活用することで、少ない生活経験を補い、どの子も自分に関わる事として課題をとらえるようにし、単元を通して意欲と見通しをもって取り組めるようにしたいと考えた。単元を通して、どの子も意欲的に、学習に取り組むことができた。自分たちで考えた問題に取り組むことで理解を深めることにもつながった。

#### 授業デザイン

単元：電気で明かりをつけよう

目標：街の明かりの写真や番組を見て、気づいたことや、疑問に思ったことを話し合おう。

導入 電気が身の回りのどのようなところで使われているか話合う。

課題把握 電気のぎもんを集めよう

番組視聴 15回 電気の通りみち

情報整理 番組を見て、疑問に思ったことを伝え合い、仲間分けをする。

問題づくり 整理された情報をもとに、学級で解決できそうな疑問を話し合い、学習の問題とする。



実験 1時間目に考えた問題をもとに実験を行う。

まとめ はじめに疑問に思ったことが、どのように解決したかをまとめる。

#### 番組の活用意図

##### より多くの疑問を引き出すための番組視聴

子どもによって生活の中での「電気」との関わりは異なる。番組を視聴し、共通の知識を得ることで、どの子も同じスタートラインで学習問題を考えられるようにした。実験をしている様子からは「本当にそうなの?」「こういうときはどうなるの?」といった疑問を子ども達から引き出すことができた。また、番組がオープンエンドで終わるので、番組を視聴した後、子どもの思考がとぎれないまま情報共有をすることができた。

#### 授業デザインにかかわる教師の工夫

##### 視聴後の情報共有

番組視聴から子どもがもった疑問を思いつくかぎり伝え合えるようにする。ひとりでは疑問をもてない子も、友達の考えから問題を考えさせたい。

##### 子どもの言葉から問題をつくる

話し合いで出た意見から学習の問題をつくることで、自分のこととしてとらえさせたい。

##### 学習の問題を画用紙でまとめる

導入でつくった問題は画用紙にまとめる。実験のときに掲示することで、問題を想起させやすくし、意欲を継続させられるようにする。

#### 生き生きと学ぶ子どもの姿

##### 子どもの自己評価から

- 自分で考えたつなぎ方が点くか点かないかわかって良かった。
- どんなつなぎ方だと豆電球が点くのがよくわかった。
- 電気の勉強が一番おもしろかった。

##### 評価シートから (実践前後で有意差が見られた11項目(全17項目)より抜粋)

- 学習したことをもっと調べてみたいと思う
- 友だちと協力して、学習することができた
- 友だちと教えあうことができた

#### 実践を終えて<行動宣言>

授業のはじめ、「明るい」「ボタンで点く」という程度の知識や経験しかなく、学習問題にたどり着けなかった子どもも、番組視聴後は進んで自分の疑問を伝えようとしていた。実験をする姿からも意欲を感じる事ができた。課題としては、思考ツールや協働学習を効果的に取り入れると、更に主体性が高まるも感じた。今後も子どもの主体性を引き出し、学習に対する理解をより確かなものにしていきたい。